

# 発掘新聞

5月26日号

平成30年度第2号

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575

## 山岳寺院「原山」本堂跡を確認

### 足利尊氏も滞在した寺院の中枢部を太宰府市教育委員会が発掘！



本堂跡の礎石建物跡（杭は礎石建物の柱の位置）



5月13日、雨の降る中、太宰府市教育委員会により、原遺跡第27次調査の現地説明会が行われた。今回の調査は、平成27年度の調査で、山岳寺院「原山」の本堂に關係するらしい石垣や階段状の参道が確認されていたため、その隣接地について重要遺跡確認調査として行われたものだった。

山岳寺院「原山」は、大宰府政庁跡の背後にそびえる四王寺山麓にあり、四王院（寺）の別院（別所）として天安2年（858）年に開かれたと伝えられており、「原山無量寺」「原八坊」とも呼ばれる。原山の僧は菅原道真の葬儀を行ったと伝えられ、また、京都で敗れた足利尊氏が九州に敗走してきた際に、身を寄せた記録が残されている。



太宰府市原遺跡第27次調査全景

今回の調査では、礎石建物跡2棟が確認でき、3×3間（東西8m、南北12m）から、5×3間（東西14.5m、南北11m）に建て替えられていた。建物の南北辺には雨落ち溝があり、東辺には石組みの階段が設置されていた。

この建物の廃絶後、石塔を建てたらしく、石塔の基礎と見られる石組が確認できた。

これまでの調査から、13世紀に大規模な造成が行われて隆盛期を迎え、14世紀代に衰退していったと考えられている。

隣接する第22次調査では、土製五輪塔や土製懸仏片が出土し

ており、本堂の宗教活動の一端をかいまみることができると期待されている。

太宰府市教育委員会は、大宰府の宗教史や地域を語るうえで、重要な成果と位置づけている。

（秦記者）



原山本堂跡（第22次調査出土遺物）



階段遺構